

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2012年3月期 連結決算の概要

2012年5月10日

オリンパス株式会社

取締役専務執行役員 グループ経営統括室長

竹内 康雄

1. 4Q(1-3)月期は、医療事業が引き続き堅調
2. 通期では、売上高は為替、震災、タイの洪水影響等を吸収し、前年水準まで回復
3. 構造改革加速： 厳格に資産等を再評価、損失を当期(2012/3)に処理し、将来リスクを軽減
4. コア事業では、今後の成長ドライバーとなる戦略新製品を投入

I. 2012年3月期 通期および第4四半期 (1～3月)連結業績の概況

2012年3月期 連結業績 ①通期・4Q概況

- 通期の売上高、営業利益は、特殊要因を吸収し前年同水準まで回復
- 特殊要因調整後では、通期の売上高は前期比約7%増、営業利益は同約38%増
- 4Qの営業利益は、前年同期比51%の増益となり、回復が鮮明

(単位:億円)	2011年3月期		2012年3月期		前年同期比		特殊要因調整後(*)	
	4Q (1-3月)	通期	4Q (1-3月)	通期	前4Q比	前期比	前4Q比	前期比
売上高	2,231	8,471	2,239	8,485	+0%	+0%	+5%	+7%
営業利益 (営業利益率)	63 (2.8%)	384 (4.5%)	96 (4.3%)	355 (4.2%)	+51%	△7%	+130%	+38%
経常利益 (経常利益率)	△37 (-)	232 (2.7%)	29 (1.3%)	179 (2.1%)	-	△23%		
当期純損益 (純利益率)	△20 (-)	39 (0.5%)	△159 (-)	△490 (-)	-	-		

(*)「為替」「震災」「プリンタ事業譲渡」「タイ洪水」の影響を除いた前年同期比

【為替レート・影響額】

円/US\$	82円	86円	79円	79円
円/Euro	113円	113円	104円	109円
売上高への影響額	-	-	△53	△255
営業損益への影響額	-	-	△14	△57

(差異)

△3円(円高)	△7円(円高)
△9円(円高)	△4円(円高)

2012年3月期 連結業績 ②特別損失

【特別損失計上の背景】

構造改革の推進:

- 新経営体制のもと、構造改革を加速
- 厳格に資産等を再評価、損失を当期(2012/3)に処理し、将来リスクを軽減

【主な特別損失の概要】 (単位:億円)

項目	3Q累計 (4-12月)	4Q (1-3月)	通期	概要
事業整理損失 引当金繰入額	0	32	32	✓国内子会社3社(アルティス、ヒューマラボ、NEWS CHEF)の解散及び、海外工場合理化に伴う損失
事業再構築損	0	34	34	✓システム関連事業における固定資産を厳格に評価したことによる損失
減損損失	141	18	158	✓3Q累計:映像事業を中心とした資産の減損損失 ✓4Q追加:国内生産拠点等の資産を厳格に再評価
その他	48	4	52	✓3Q累計:主に過年度決算訂正関連費用
特別損失合計	189	88	277	

2012年3月期 連結業績 ③セグメント別概況

為替・震災・タイ洪水等の影響を除くと、実質的には、ほぼ全分野で増収増益基調

(単位:億円)		2011年3月期		2012年3月期		前年同期比		特殊要因調整後(*)	
		4Q	通期	4Q	通期	前4Q比	前期比	前4Q比	前期比
医療	売上	935	3,553	967	3,492	+3%	△2%	+7%	+6%
	営業利益	179	717	210	682	+17%	△5%	+24%	+13%
ライフ・産業	売上	300	1,008	265	924	△12%	△8%	+2%	+8%
	営業利益	41	86	19	54	△53%	△36%	△31%	+8%
映像	売上	284	1,314	238	1,286	△16%	△2%	△8%	+6%
	営業損失	△73	△150	△70	△108	-	-	-	-
情報通信	売上	573	2,095	654	2,294	+14%	+9%	+14%	+9%
	営業利益	17	52	17	53	△0%	+1%	△0%	+1%
その他	売上	138	500	115	489	△17%	△2%	△17%	△2%
	営業利益	△15	△36	△28	△80	-	-	-	-
全社・消去	売上	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	△86	△285	△53	△246	-	-	-	-
連結合計	売上	2,231	8,471	2,239	8,485	+0%	+0%	+5%	+7%
	営業利益	63	384	96	355	+51%	△7%	+130%	+38%

(*)「為替」「震災」「プリンタ事業譲渡」「タイ洪水」の影響を除いた前年同期比

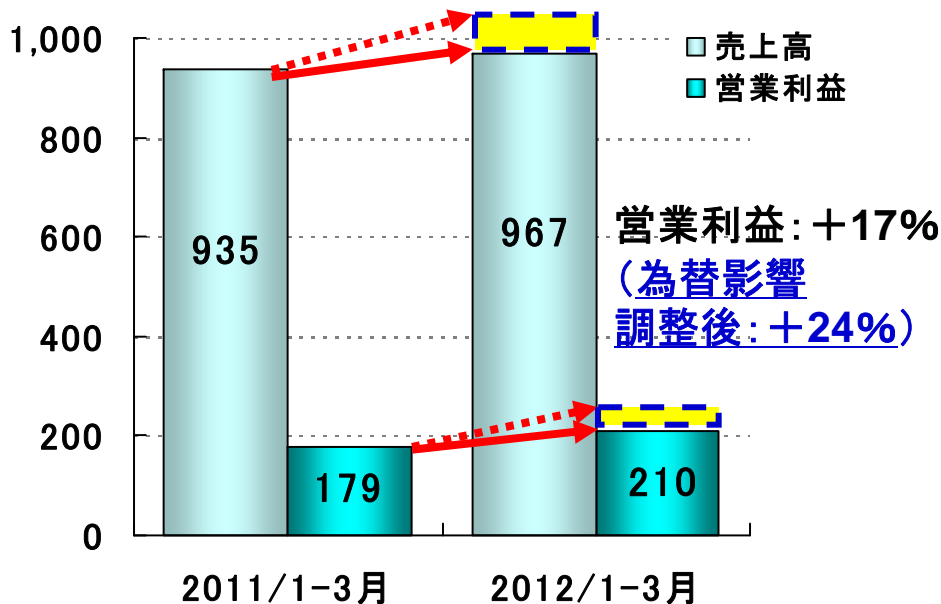
2012年3月期 連結業績 ④医療事業

- 年度後半は震災から回復、一連の損失計上先送りの影響は限定的
- 4Qは為替影響を吸収し前年同期比3%増収・17%増益と堅調に推移、利益率も2.6ポイント改善 (2011/3期4Q:19.1% ⇒ 2012/3期4Q:21.7%)
- 内視鏡、外科・処置具ともに順調に開発進捗、海外中心に戦略新製品3機種投入
(エネルギーデバイス「サンダービート」、次世代内視鏡基幹システム「EVIS EXERAⅢ」、新興国向け内視鏡システム)

4Q(1-3月期)

売上高: +3%
(為替影響調整後: +7%)

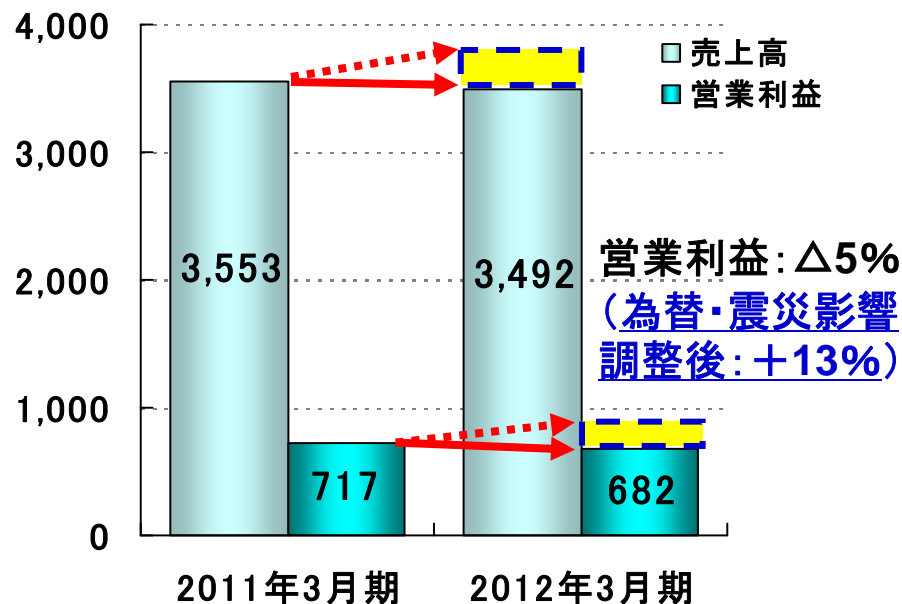
(単位:億円)



通期

売上高: Δ2%
(為替・震災影響調整後: +6%)

(単位:億円)



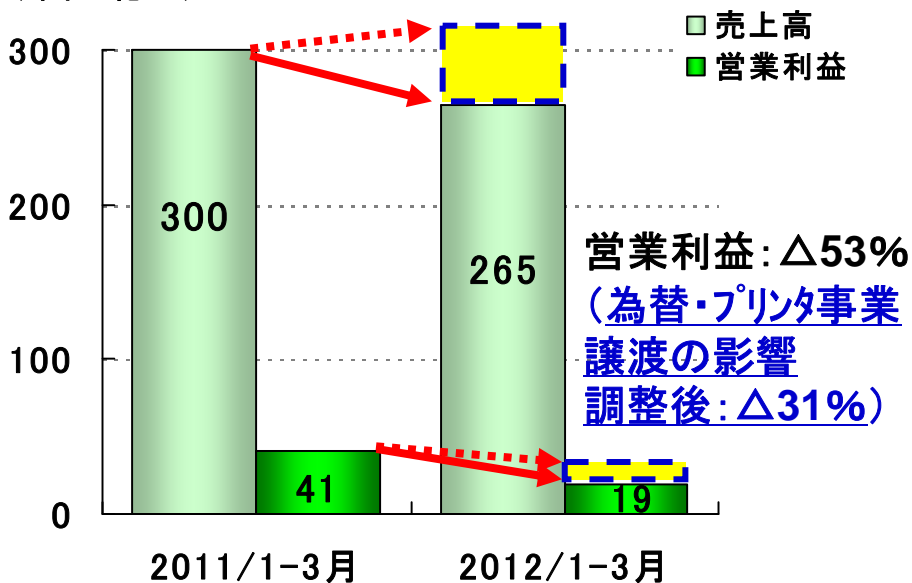
2012年3月期 連結業績 ⑤ライフ・産業事業

- 通期・4Qともに、特殊要因を除く**実質ベースでは増収**となり、安定的に推移
- 産業分野では、1月に投入した工業用顕微鏡(「DSXシリーズ」)と工業用内視鏡(「IPLEX UltraLite」)の**新製品販売が順調に進捗、収益にも寄与**

4Q(1-3月期)

売上高: $\Delta 12\%$
 (為替・プリンタ事業譲渡の
 影響調整後: $+2\%$)

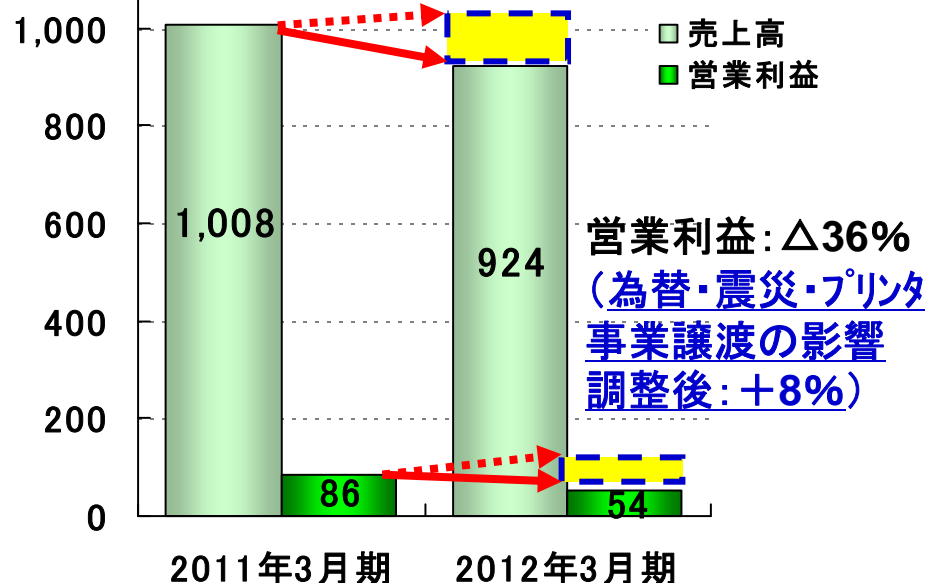
(単位: 億円)



通期

売上高: $\Delta 8\%$
 (為替・震災・プリンタ事業譲渡の
 影響調整後: $+8\%$)

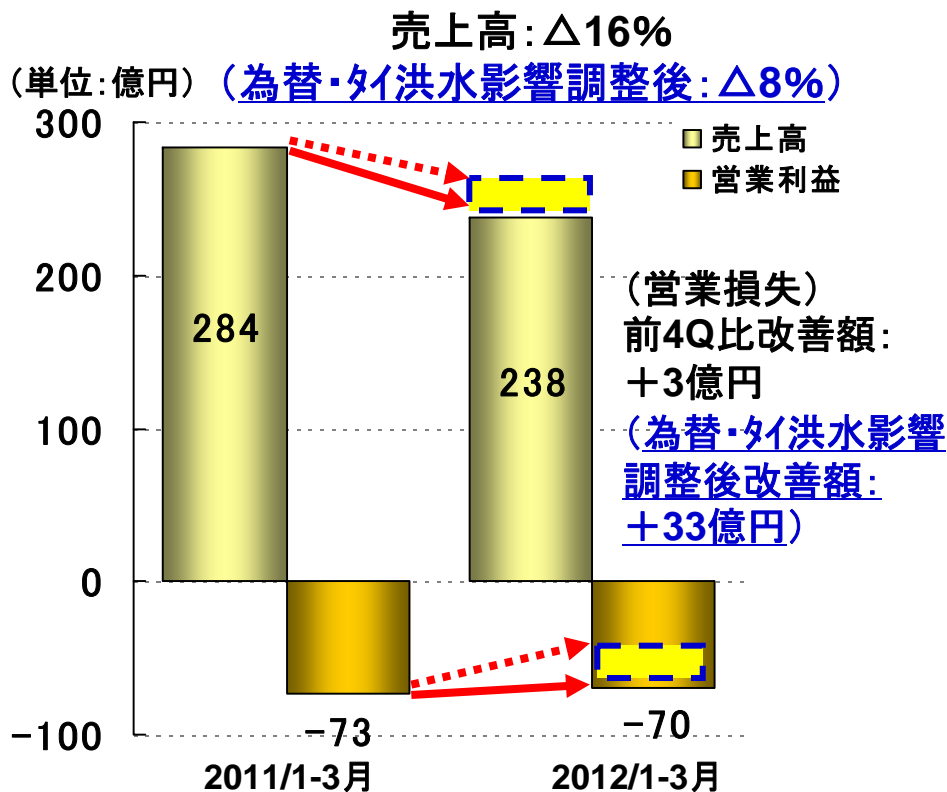
(単位: 億円)



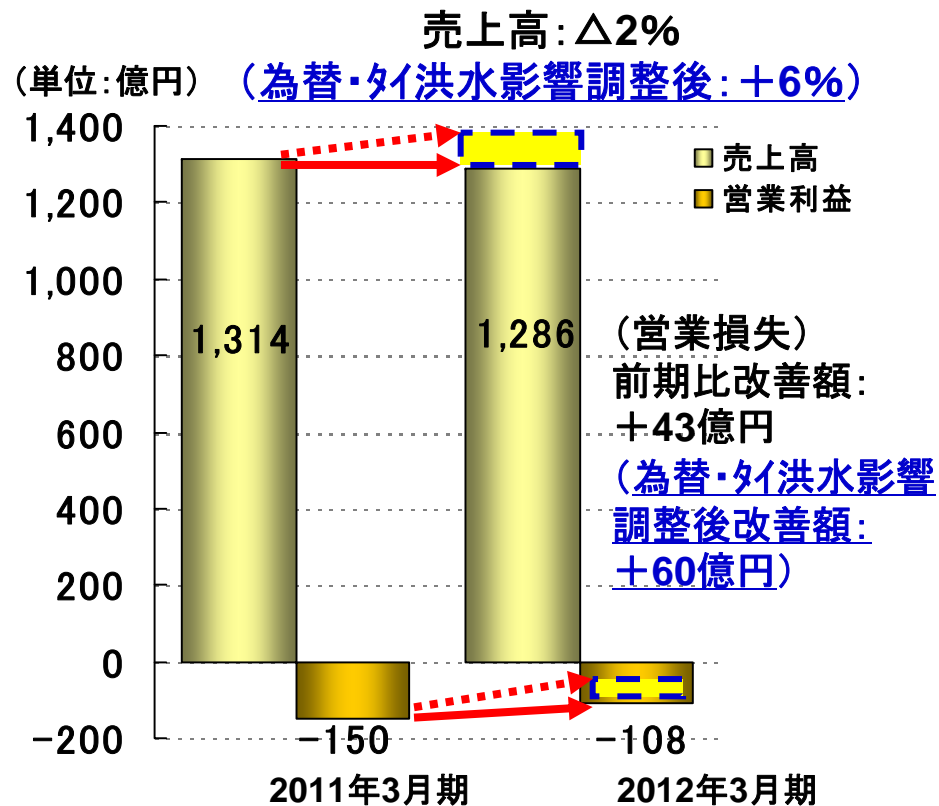
2012年3月期 連結業績 ⑥映像事業

- タイ洪水の影響等で減収となるも、マイクロ一眼「PENシリーズ」や高付加価値コンパクトは、国内・アジア・欧州を中心に順調
- 3月31日発売のマイクロ一眼の新シリーズ「OM-D」の出足は順調

4Q(1-3月期)



通期

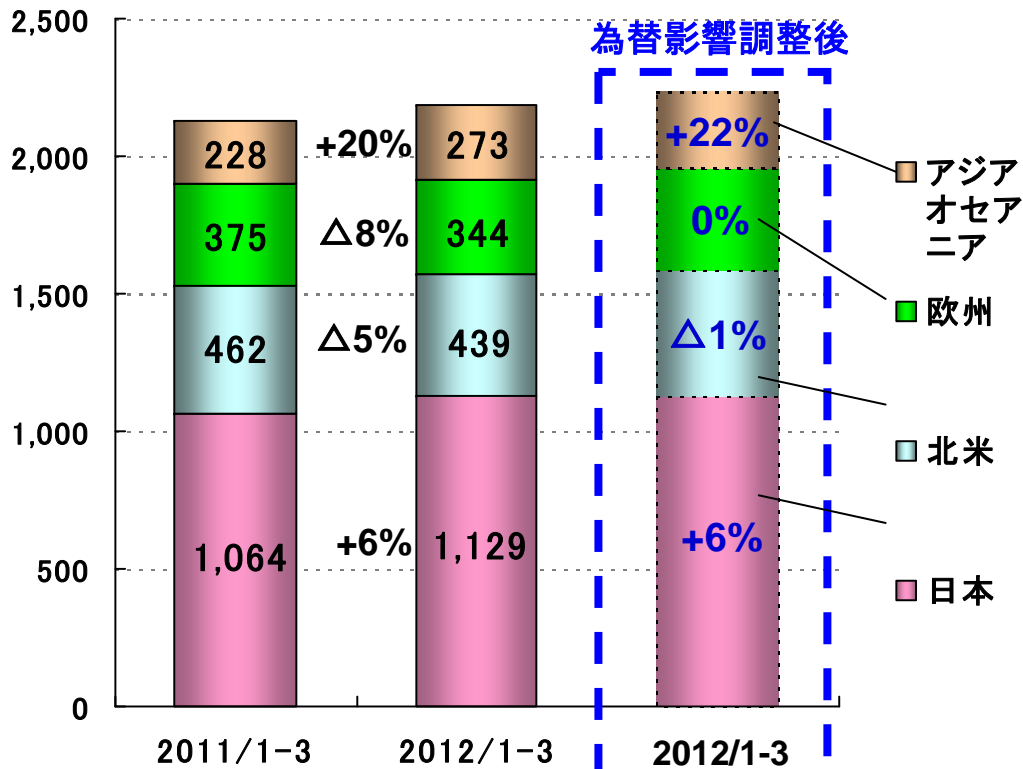


2012年3月期 連結業績 ⑦仕向地別売上高

- アジアでは、医療を中心に全分野で好調に推移
- 欧州ではマクロ経済環境悪化の状況下、現地通貨ベースで通期+6%成長

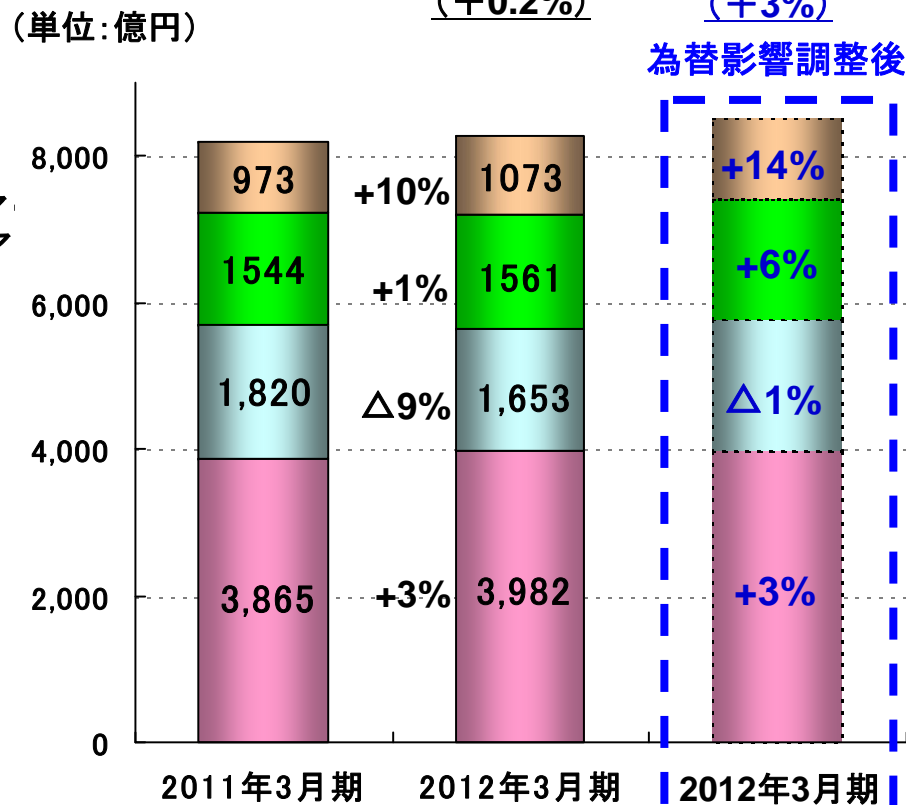
4Q(1-3月期)

2,231億円 2,239億円 2,292億円
 (単位:億円) (+0.4%) (+3%)



通期

8,471億円 8,485億円 8,740億円
 (単位:億円) (+0.2%) (+3%)



2012年3月期 連結業績 ⑧貸借対照表(2012年3月末)

(単位:億円)

	2011年 3月末	2011年 12月末	2012年 3月末	増減 (12月 末比)		2011年 3月末	2011年 12月末	2012年 3月末	増減 (12月 末比)
流動資産	5,335	5,076	5,266	+190	流動負債	3,328	2,917	3,204	+287
(デジカメ在庫)	(215)	(203)	(236)	(+33)					
有形固定資産	1,413	1,225	1,278	+53	固定負債	5,708	5,941	5,981	+40
無形固定資産	2,060	1,895	1,971	+76	(内:社債・長期借入金)	(5,213)	(5,400)	(5,303)	(△97)
投資その他資産	1,383	1,099	1,150	+51	純資産	1,156	438	480	+43
					(為替換算調整勘定)	(△952)	(△1,229)	(△1,021)	(+208)
					(自己資本比率)	(11.0%)	(4.4%)	(4.6%)	(+0.2p)
資産合計	10,192	9,296	9,665	+370	負債 純資産 合計	10,192	9,296	9,665	+370

有利子負債 : 6,424億円 (+56億円)

純有利子負債 : 4,423億円 (+70億円)

2012年3月期 連結業績 ⑨キャッシュフローの状況

(単位:億円)

	2011年3月期	2012年3月期	増減
売上高	8,471	8,485	+14
営業利益	384	355	△29
(%)	4.5%	4.2%	-
営業CF	305	309	+4
投資CF	190	△357	△547
財務CF	△374	△58	+316
キャッシュフロー	121	△106	△227
フリーキャッシュフロー	495	△48	△543
有利子負債	6,488	6,424	△64
現預金	2,136	2,001	△135

減価償却費	342	338	△4
のれん償却額	122	123	+1
設備投資額	296	352	+56

※上記はキャッシュ・フロー計算書上の数値です

II. 今後の主なスケジュールについて

今後の主なスケジュールについて

(2012年)

- ～6月下旬 : 通期見通し、中期ビジョン発表
(定時株主総会前迄)
- 6月下旬 : 定時株主総会
- 8月9日(予定) : 2013年3月期1Q決算発表

OLYMPUS

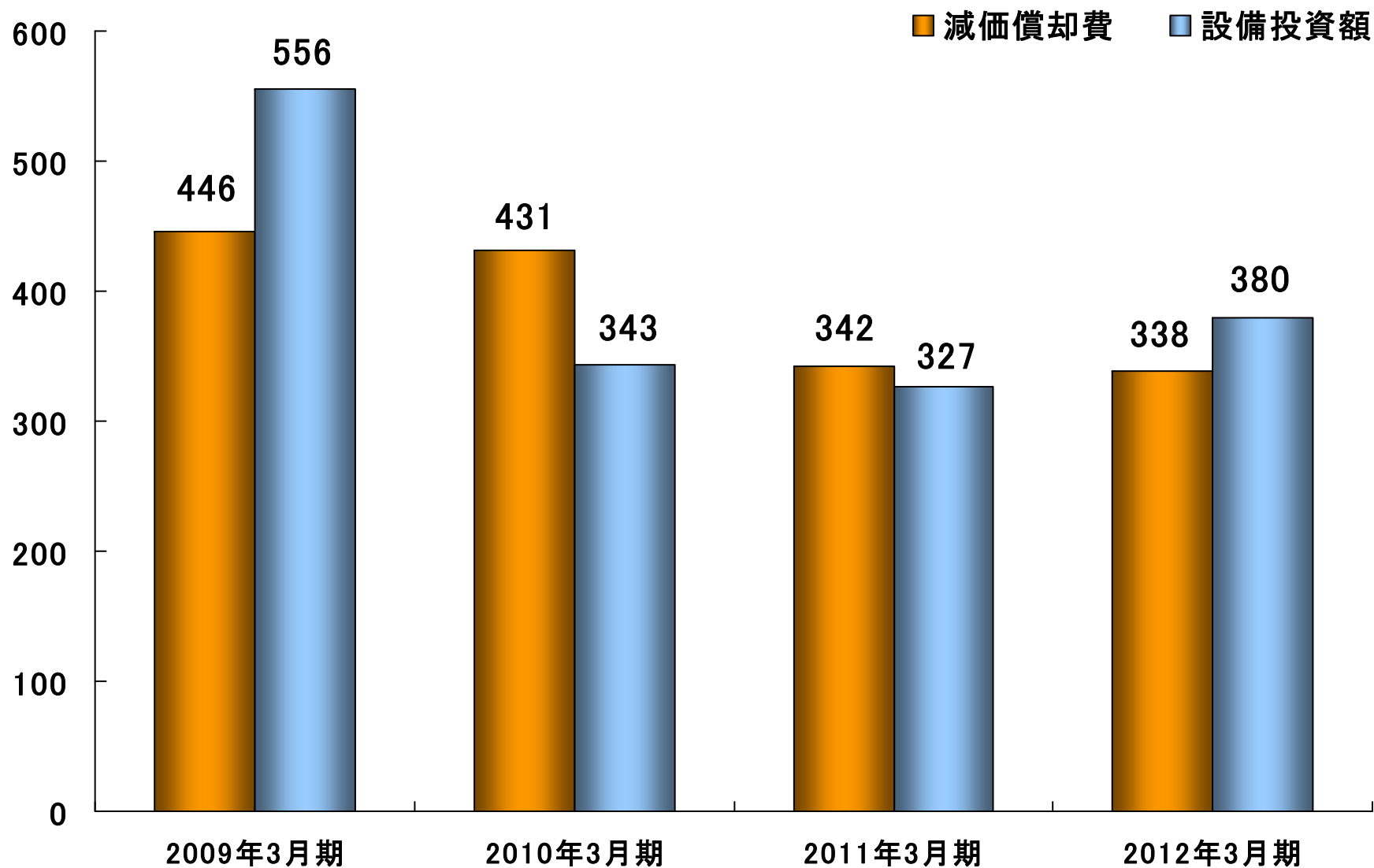
参考資料

2012年3月期(通期) セグメント別 特殊要因影響額

		為替影響額	震災影響額	プリンター事業 譲渡影響額	タイ洪水 影響額
医療	売上	△160億円	△110億円	—	—
	営業利益	△66億円	△60億円	—	—
ライフ・産業	売上	△43億円	△30億円	△96億円	—
	営業利益	△19億円	△10億円	△9億円	—
映像	売上	△48億円	—	—	△65億円
	営業利益	+22億円	—	—	△40億円
情報通信	売上	—	—	—	—
	営業利益	—	—	—	—
その他	売上	△3億円	—	—	—
	営業利益	+5億円	—	—	—
連結合計	売上	△255億円	△140億円	△96億円	△65億円
	営業利益	△57億円	△70億円	△9億円	△40億円

設備投資・減価償却費

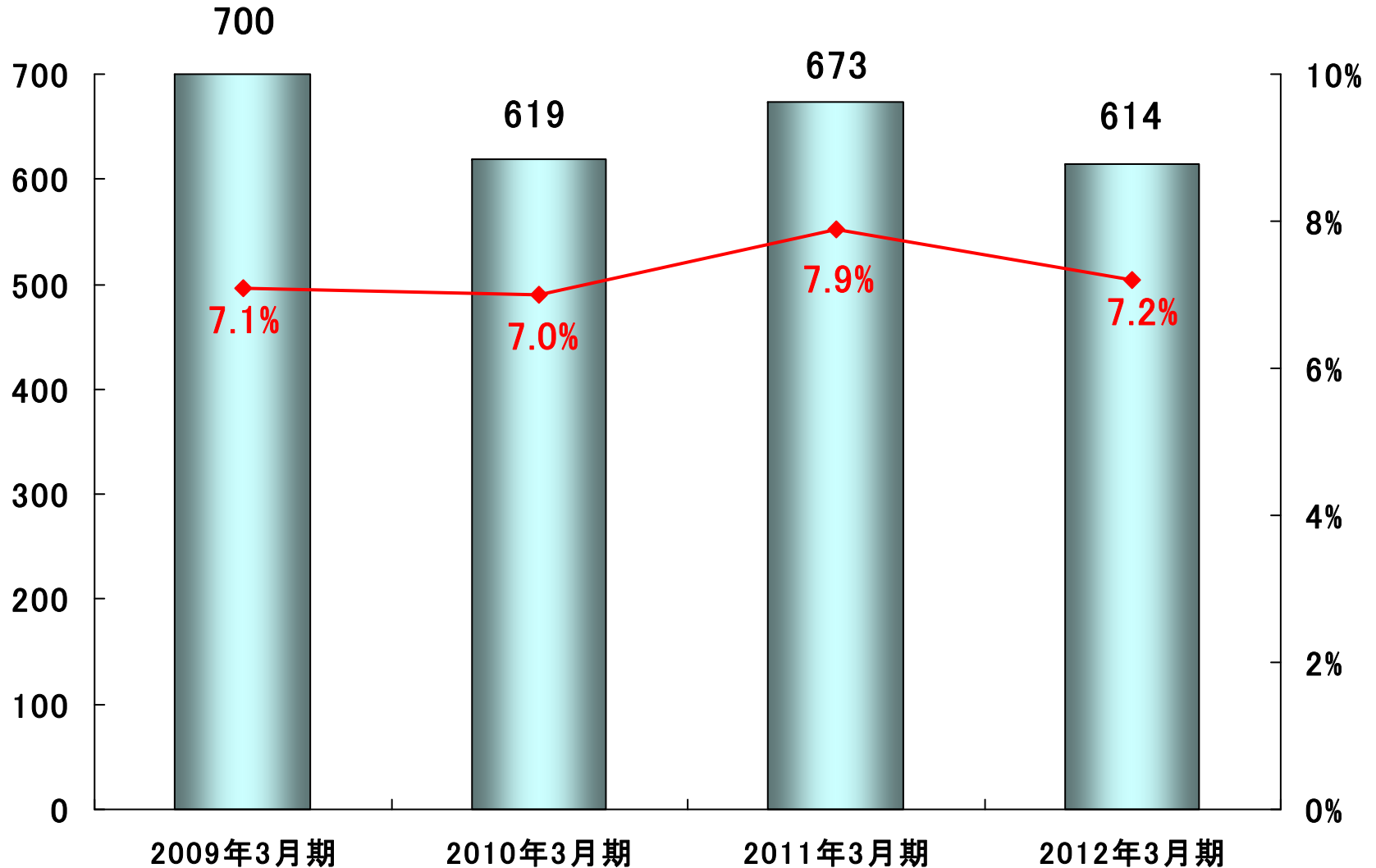
(単位:億円)



研究開発費

(単位:億円)

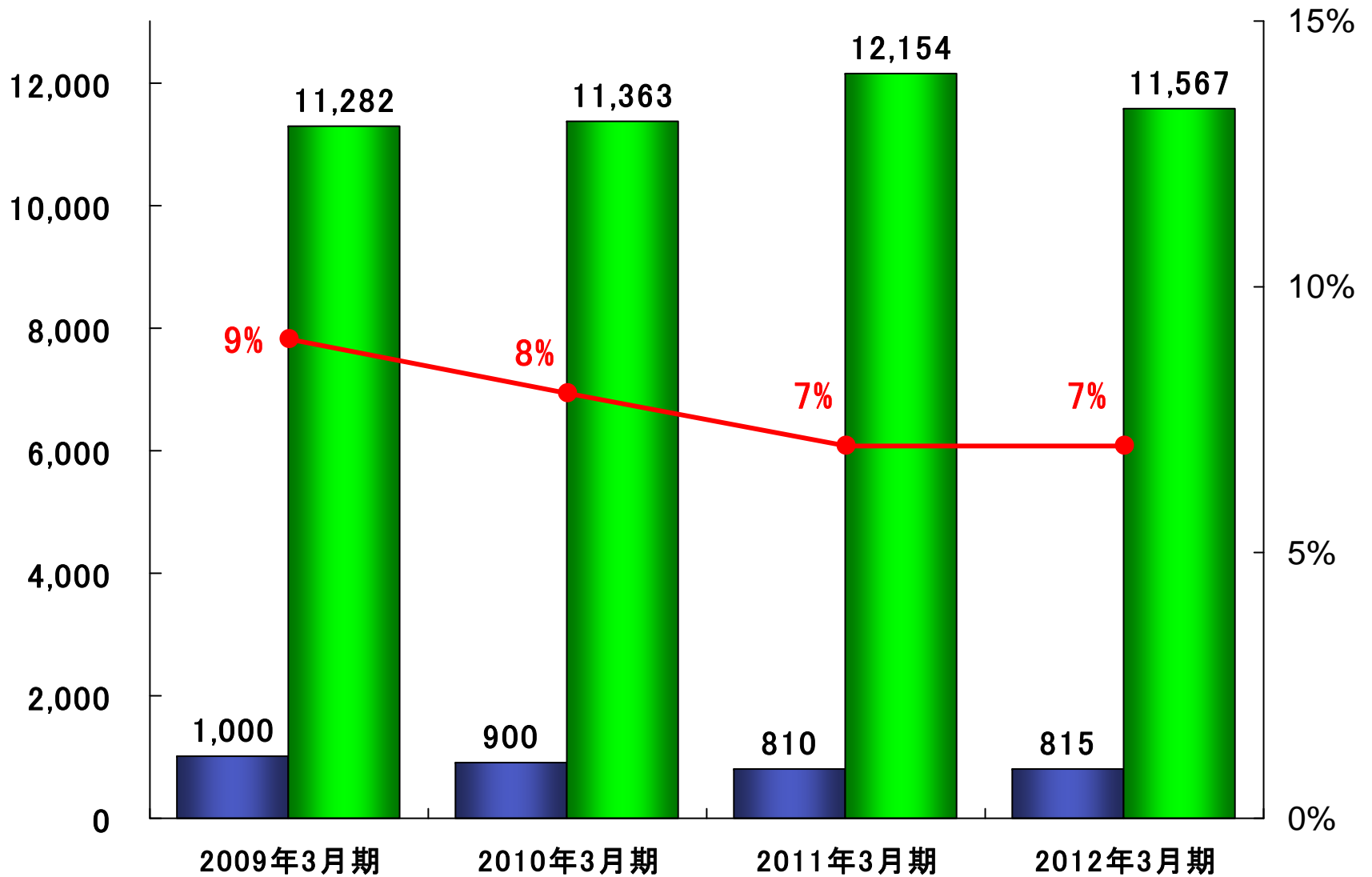
■ 研究開発費 ◆ 売上高研究開発費比率



デジタルカメラ

(単位:万台)

■ Olympus ■ WW ● 台数シェア



戦略新製品について(コア事業)

医療事業

THUNDERBEAT

- 世界初、高周波と超音波のエネルギーを同時に出力する外科手術用エネルギーデバイス



EVIS EXERA III

- ←次世代内視鏡基幹システム(欧米向け): 観察性能向上、操作性向上、ドクター・患者の負担軽減等、さらに改善



Axeon

- ↓当社初、新興国向け内視鏡システム: アジアにおける業績拡大のドライバー



ライフ・産業事業

- 「IPLEX UltraLite」: シリーズ最小・最軽量ながら上位機種並の画質と耐久性を有する工業用内視鏡



- ↑業界初、光学技術とデジタル技術を融合した工業用顕微鏡「オプトデジタルマイクロスコープ DSXシリーズ」

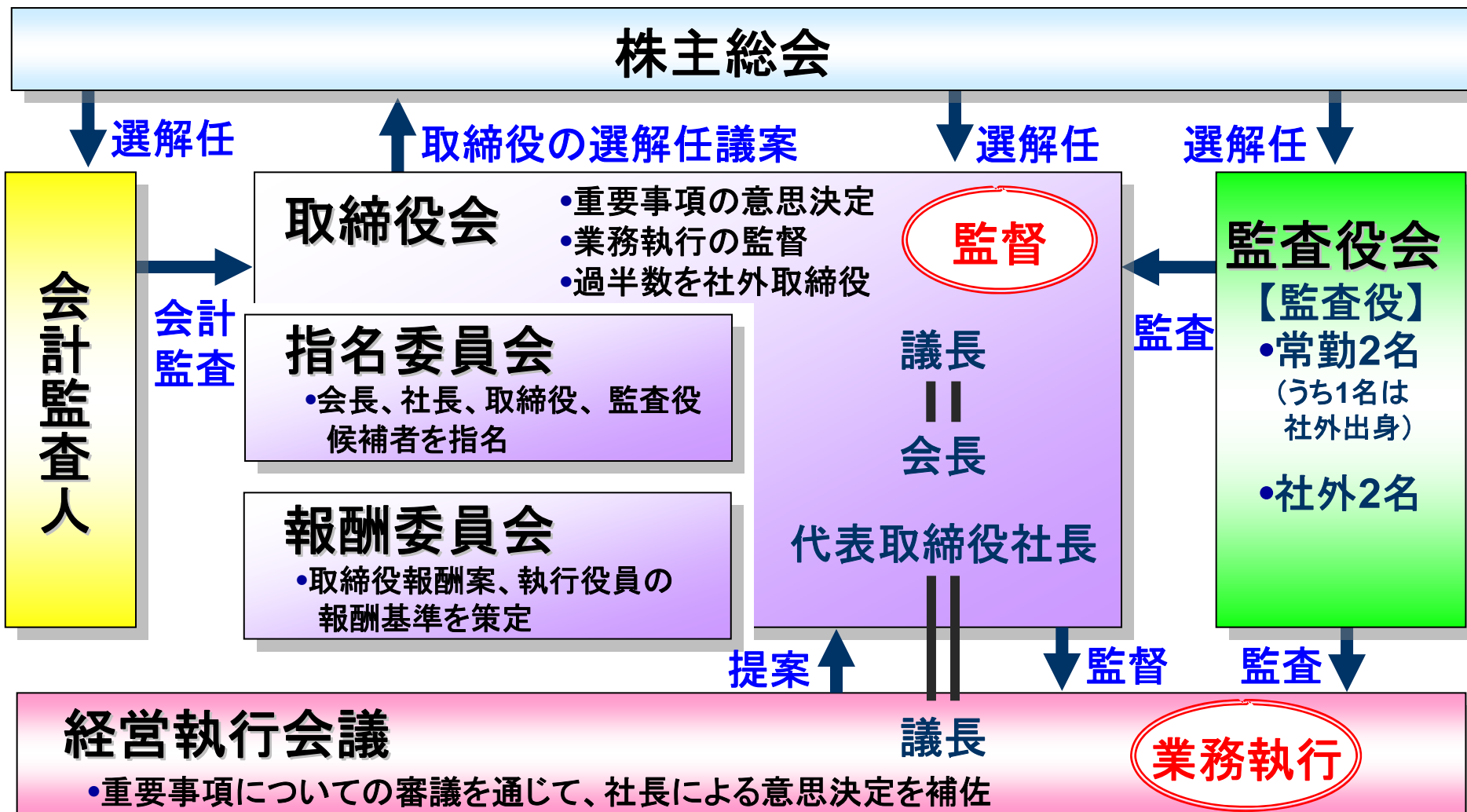
映像事業

- ミラーレス市場初、防塵・防滴性能を備えたマイクロ一眼の新シリーズ「OM-D」: フィルム時代の一眼レフOMのブランドが復活



新体制におけるガバナンス体制図

- 経営の「執行」と「監督」を明確に分離
- 「指名委員会」および「報酬委員会」を新設



本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。